

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の社会科の未来へバトンをつなぐ

令和3年3月発行
西部教育事務所

社会科授業づくり講座
土佐清水市立清水中学校



【単元】 地理的分野 B(2)世界の諸地域 ②ヨーロッパ州
【授業者】 藤原 上総 教諭

教材研究会 令和2年10月7日(水)

単元を貫く課題

◆日本は地域統合すべきか否か?ヨーロッパ州を例に、「地域統合」がもたらす成果と課題とは何か?

単元計画

単元を書く課題：日本は地域統合すべきか否か?ヨーロッパ州を例に、「地域統合」がもたらす成果と課題とは何か?

【課題把握】動機付け / 方向付け	【課題追究】情報収集 / 考察・構想	【課題解決】【新たな課題】まとめ / 振り返り		
<p>◆付けたいカ ヨーロッパ州を大観し、自然環境や主要な国々の位置と名称を把握する。</p> <p>◎ 国 ヨーロッパ州にはどんな地理的特色があるのか? (生徒の予想) ・発展している国が多い。 ・大小の様々な国がある。 ・長年、多くの対立や戦争が起こった地域である。 ・多くの民族があり40以上の国々がある。 ・キリスト教が広い地域で信仰されている。 ・国によって特色のある自然が見られる。</p> <p>☆ 地中海性気候、西岸海洋性気候、偏西風、フィヨルド、先進国 位置・自然環境・分布</p> <p>◎ 評価規準 ヨーロッパ州について、よりのよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(主観的)</p>	<p>◆付けたいカ EUが特成された目的を踏まえ、EUは何を目指し、どんな課題を抱えているのかについて考え、表現する。</p> <p>◎ 国 EUは何を目指している、どんな課題を抱えているのか? (生徒の予想) ・ヨーロッパの国々は、戦争の歴史を踏まえ地域統合した。 ・経済的、政治的に相互の連携を拡大できる。 ・アメリカや中国などの経済大国に対抗しようとしている。 ・同じEU内でも、国や地域によって経済格差がある。 ・国によって異なる政治や文化の違いから、トルコのような加入を目指す国もあれば、イギリスのように脱退する国も近年見られている。</p> <p>☆ ヨーロッパ連合(EU)、ユーロ 地域統合・空間的相互依存作用</p> <p>◎ 評価規準 地域統合をする利点について、また統合することで起こる課題について、EU加盟国における地域格差の状況とその要因について考え、表現できる。(主観)</p>	<p>◆付けたいカ ヨーロッパ州の産業(農業と工業)にはどんな特色があり、EUとどのような関係性があるのかを理解する。</p> <p>◎ 国 ヨーロッパ州の農業・工業にはそれぞれどんな特色があるのか? (生徒の予想) ・フランスは農業生産が盛ん。 ・ヨーロッパでは、地域によって多様な農業が行われている。 ・ドイツでは自動車産業を中心に工業が盛ん。 ・EU最大の工業国であるドイツでは、外国人労働者を多く受け入れている。 ・航空機の製造に見られるようにEU内での分業・相互依存の関係がある。</p> <p>☆ 地中海式農業、混合農業、酪農、園芸農業、重化学工業、外国人労働者 産業・空間的相互依存作用</p> <p>◎ 評価規準 ヨーロッパ州の産業(農業・工業)について、EUの農業政策や、工業発展と外国人労働者との関わりについて考え、表現できる。(主観)</p>	<p>◆付けたいカ ヨーロッパ州は環境問題にどんな対策をしているのか? (生徒の予想) ・産業の発達によって環境問題が起こるようになった。 ・ヨーロッパ州は、一国では解決できない環境問題がある。 ・オランダには海抜がメートル以下の干拓地(ポルダー)が多くある。 ・自動車の利用削減や、再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。</p> <p>◎ 国 ヨーロッパ州は環境問題にどんな対策をしているのか? (生徒の予想) ・面積が大きいため、気候も多岐にわたる。 ・1991年まで社会主義国であった。 ・国境の自由化が進み、経済大国である。 ・広い国土に豊富な資源がある。 ・イギリスによるEU離脱で利益を上げている。</p> <p>☆ 社会主義、バイブル、BRICS 空間的相互依存作用・自然環境・分布・国々の特殊性</p> <p>◎ 評価規準 ヨーロッパ州の環境問題に関する資料から、陸性雨が国家間の結び付きに関わる一般的な課題であることを読み取る。(技能)</p>	<p>◆付けたいカ ロシア連邦の地理的特徴やEUとの関わりを捉え、EUに同じ理由を考え、表現する。</p> <p>◎ 国 日本は地域統合すべきか? EUの成果と課題を踏まえ、考えよう。 (生徒の予想) ・国家間の結びつきが重要。 ・経済の自由化が進み、経済大国である。 ・広い国土に豊富な資源がある。 ・イギリスによるEU離脱で利益を上げている。</p> <p>☆ 他国の経済格差 ×民族の違いによる対立 ×争いに見舞われる場合もある。</p> <p>◎ 評価規準 ヨーロッパ州について、様々な民族と多くの国々が存在する地域的特色に着目し、そこで見られる農業や工業、地域統合、環境問題の要因や影響を多面的・多角的に考察し、国家間の相互依存関係について理解している。 「日本は地域統合すべきか否か?」という課題を考えることで、地域統合の良い点と悪い点を整理し、課題について主体的に取り組んでいる。</p> <p>◎ 他世界の諸地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて考察し、表現できる。(主観)</p>

ポイント①

【単元末の生徒の姿をイメージする】
単元を構想する際のポイントは、本単元で育成を目指す資質・能力を基に、単元終了時で目指す生徒の姿を明確にすることです。生徒が単元末にどのような表現(発言内容やまとめの記述など)ができるのかをイメージすることで、単元全体の学習活動の方向性が明確になり、一貫した指導につながります。

ポイント②

【学習過程を意識して単元を構想する】
学習指導要領に示されている社会科の学習過程である「課題把握」「課題追究」「課題解決」の段階を意識して単元を構想していくことが重要です。学習過程に沿って学習活動を進めていくことにより、生徒は見通しを持つことができ、主体的に学習に取り組みやすくなります。

ポイント③

【働かせる見方・考え方を位置付ける】
単元の各学習活動で働かせる見方・考え方を明確にし、位置づけることが重要です。見方・考え方を働かせることを繰り返しながら、課題解決に向かっていくことで、生徒の思考が深まっていきます。

講師の井上昌善先生(愛媛大学教育学部講師)からの助言① 見方・考え方を働かせる問いの設定

【本単元で働かせたい見方・考え方】

- 空間的相互依存作用
- 地域

【見方・考え方を働かせる問いの例】

- この地域でその課題が起こっている要因について国と国同士の結び付きに注目して考えよう。
- この地域でその課題が生じている理由について、地域の変容に注目して考えよう。

【身に付けさせたい資質・能力】

- 地球的課題と地域的特色の関係の理解を深める。【知識】
- 地球的課題と地域的特色を関連付けて多面的・多角的に考察する。【思考力・判断力・表現力等】





本時のねらい

イギリスのEU 脱退を取り上げ、脱退を決定するに至った経緯を複数の資料から考察することを通して、単元を貫く課題を設定することにつなげていく。

参観の視点

- ・(単元を貫く課題との関係から) 本時の問いは適切か。
- ・(授業について) 生徒が自ら考えたいくなる工夫があったか。

本時の目標

*単元の問題を自分たちで見つけ出し、その課題解決に向けてこれからの活動の計画を立てることができる。

11/17 ⑤ ヨーロッパ州 ②

めあて なぜ、イギリスはEUを脱退するのだろうか?

Q 経済大国、ってどい?

③ アメリカ、中国、日本、ドイツ

GDP (国内総生産) (2019)

予想	1位 アメリカ	結果	アメリカ
	2位 中国		中国
	3位 ドイツ		日本
	イギリス		

ヨーロッパが上位3ヶ国に比べ?
ヨーロッパ連合(EU)

① ④ ⑤

① イギリスはEUに入ることで、他の国の移民が勝手に入ってくることをこぼしたから。

② イギリスは、15.4億ユーロ

③ ⑥

③ 拠出金ではうかがいにくい。よしも、自分でかせいた方がよいと思、たから。 1班

④ 自由に入国できて 入国者の増え治安が悪化

⑤ ② 拠出金が増えた。

⑥ 戻り税がわからない。もうからない 2班

④

④ EUへの拠出金が増えた。(②)

⑤ イギリスへの移民が増えた。(③)

⑥ イギリス出身の人を打ちた。(③⑥)

⑦ 自由に入ってくるのをやめてほしい。(③⑥)

5班

⑥

⑥ EUにお金を使いつまて移民や外国生まれの人の増加に対応できなくなつた。

3班

⑥ 移民する人が増加してEUに支払う資金が増えたから。

⑦ 国外の人が増えて、国内の人が減らしている。

6班

まとめ

○移民により人口が増える(治安、資金が増、文化...)

○拠出金がかかる

↓

国民投票の結果みるとわずかな差で離脱派が残留派を上回つた。

研究協議より

- ・資料は多かったが、生徒は効果的に活用できていた。
- ・根拠を示しながら表現できていた。
- ・予想を立て、それを共有するという流れができていた。
- ・EU 加盟のメリット、デメリットの根拠が薄かった。メリットを明確にした上で、イギリスが脱退した理由を考えさせれば、デメリットの面がより浮かび上がってきたのではないか。
- ・デメリットの資料の提供が多かったようなので、生徒がメリット、デメリットのどちらからでも考えられるように、資料の提供に工夫があるとよかったと思う。
- ・授業者が多くの資料を提供していたが、資料は教科書資料ではいけなかったのか。

講師の井上昌善先生からの助言②

「自分事」ではなく「当事者」として思考する公民の育成

「自分事」を過度に重視する学習
→社会的問題と自分との関わりしか考えられず、視野が狭くなるおそれがある。

「当事者」として思考する公民の育成
=「当事者性」の育成

単に個人的な利益だけではなく様々な立場の人々の状況を考える学習活動の実施

授業者より

学習指導要領を読み込み、その内容をどれだけ授業づくりに具体化できるのかということを考えたり学んだりするよい機会となった。

生徒の言葉をつなぎながら、授業を展開することがまだ上手くできないなど未熟な点もあるので、今後も教科の専門性を高めるために自己研鑽を継続していきたい。